

CAMPAIGN

Korean Dream 10Million Campaign

「自由で統一されたコリア」のためのサポート
キャンペーン（オンライン署名）にご協力ください！

簡単な署名で
サポート！



コリアン・ドリームは、自由、人権、共栄という原則に基づき、平和で統一された朝鮮半島を構想しています。弘益人間（「人間社会に広く益をもたらす」の意味）という古朝鮮の建国精神に根ざし朝鮮半島を和解と協力の世界的シンボルに変えることを目指します。「コリアン・ドリーム1000万人キャンペーン」は、全世界で1000万人の支持者を集集させ、朝鮮半島の平和と統一を求める世界的な声を上げることを目標にしています。希望の未来を築くために、この世界的ムーブメントに参加してください。あなたのご支援が朝鮮半島の平和を現実のものにします。



EVENT

JAPAN YOUNG LEADERS ASSEMBLY



4月12日、Japan Young Leaders Assemblyが江東区にある東京国際交流館・プラザ平成で開催されました。160名を超える若者たちが参加。彼らの声と情熱に満ちた時間となりました。

元駐イタリア北朝鮮外交官のキム・ドンス氏、NGOモドゥモイジャ(KOA)の川崎栄子氏、学習院大学教授の村主道美氏、脱北青年のキムガヨン氏（写真左）、チャウイソン氏（中央）、キムジュヒョン氏（右）。日本、韓国をはじめ、世界各国からの留学生や集まった若者たちが一堂に会し、平和への率直な思いや「コリアンドリーム」のビジョンを共有しました。



特に、北朝鮮脱出青年たちは、脱北に際する勇気ある話を披露し、人々の心を動かしました。世界中の青年たちは、1分間のスピーチで希望と前向きなメッセージを伝え、この世代の強さと素晴らしさを示す、意義深い一日となりました。

■キム・ガヨンさん（脱北青年）

彼女は北朝鮮の裕福な家庭に生まれましたが、両親が小さなミスから収監されて亡くなり、孤児として生きざるを得ませんでした。「今この瞬間にも北朝鮮の住民たちは必死にもがきながら日々を過ごし自由を奪われています」と訴え、脱北後、当初は自身が日々の生活で精一杯だという言い訳から統一のために何もできなかったけれども、今は統一のスピーカーになってワンコリアを訴えていると話し、人々に参加を呼びかけました。

■キム・ジュヒョンさん（脱北青年）

彼女もやはり恵まれた家庭で育ちましたが、ロシアに留学中、両親を説得して脱北しました。北朝鮮では人々が自由や民主主義を享受できずに暮らしている事実と言及し、その実例としてロシアに派遣されている兵士たちを上げ、悲劇を終わらせるために、聴衆にコリアンドリームへの協力を訴えました。



日韓外交正常化60周年となる年に平和への願いを込め、日本とコリアが見事に調和した舞踊を披露した千代園剛さんと金英琴さんによるONE UNIVERSE ▶



NOTICE

オンライン セミナー

「北東アジアの未来のためのビジョン」 ～最大の難題、朝鮮半島問題を中心として～

- 講師：川崎栄子（AKU Japan代表理事,KOA会長）
芳岡隼介（GPF Japan）
- 日時：2025年5月24日（土）19:00～20:30
Zoom開催
- 参加費：無料（事前申し込み制）



▲申し込みフォーム

脱北者・川崎栄子さんに聞く 私が見た北朝鮮～人権という概念がない社会～

今回は4月19日（土）にオンラインで開催された第11回ピース・デザイン・フォーラムでの脱北者・川崎栄子さん（AKU Japan代表理事／NGOモドゥモイジャ会長）の講演内容を抜粋してお伝えします。（詳細はウェブサイトに掲載）



私は在日コリアン2世として日本で生まれ、17歳の時に家族を日本に残して一人で北朝鮮に渡りました。子供たちを結婚させ、43年間をなんとか生き延びた後、60歳を過ぎて脱北しました。

北朝鮮で43年を生き抜き、決死の脱北

子供達を結婚させた後、「このまま人生を終えるのか？」と考えた時に、「ありえない」と思いました。外の世界にこの国のことを伝えて解決しなければならないと思いました。60歳での脱北は無謀なことでしたが、どうすれば国外に出られるかを緻密に考え、自分の子供にも、どんなに親しい友達にも一切脱北に関する話はしませんでした。

私は飢餓を乗り越えるために食堂を経営していたので、「商売の種を探るため」という理由をつけて中朝国境へ向かいました。そして恵山に着いた途端、私はすべて日本製の服装に着替え、遠くから見ても一目で日本から来た人間だとわかるようにしました。案の定、ブローカーが私を見つけて声をかけてきました。

「川の向こうの市場に行ってみませんか？」...このような場合、ブローカーは絶対に「脱北させる」とは言いません。そこでブローカーの要求額の倍を渡して、安全に行けるようにと約束させました。私が目をつけた通り、その人は賢いブローカーでした。

そのときは渇水期だったので、昼間に鴨緑江を普通に歩いて越えて、中国側に行くことができました。ブローカーは三段階までボタンタッチしましたが、最後の3番目が最も大物でした。その人は朝鮮族としては出世した人で、高等裁判所の判事まで務めた人でしたので、外を出歩いて怪しまれてもその人の名前を出せば何も言われず、助かりました。こうして無事に脱北は成功しましたが、もしその日に国境を渡っていなかったら、翌日にSARSで国境閉鎖になっていたのです。

それからは、日本にいる弟にお金が必要だと伝えたら、生活費も合わせて50万円を振り込んでくれました。しかし振り込まれた50万円をブローカーは全部自分のものにしてしまい、それでも「返せ」とは言えない立場でした。通報でもされたら捕まるからです。その代わり、日本語を学びたい中国人をたくさん紹介してくれたので、中国人に日本語を教えてお金を作りました。最終的に、自分で日本の領事館に連絡して、日本に戻ってきました。

北朝鮮での人権に関して言えば、43年間暮らしながら、本当にひどいものでした。人権とか自由という言葉は、存在しないのと同じでした。「自由」という言葉を使ったら、共産主義に反対する反動分子だとみなされます。

地獄絵図のような大量餓死の時代も経験

金日成のときには細々とでも配給がありました。しかし金日成の死後、金正日は途端に配給をなくしてしまいました。配給にすがって生きてきた人たちは生きる術がなく、そこから大量餓死の時代に入りました。それなのに金正日は、金日成の墓の建設に莫大な金を使っていました。

私が北朝鮮に行った目的は、社会主義社会とはどういうものなのかを知りたいということでした。「税金がない国」とはということなのか。しかし行ってみたら、本当にとんでもない国でした。それは、国民が働いて生み出した価値のほとんどを国が持っていき、国民には配給がもらえる程度のぎりぎりのお金しか与えないという、「ぼったくりの国」でした。

95年からは「苦難の行軍」と言われ、ものすごく人が死んだ時期でした。人がどこで死ぬかということ、みんな駅で死にました。みんな行くところがなくて駅に集まってきて、ぎゅうぎゅうで背中合わせに座りました。そのまま人が死んでいきました。死ぬとどうなるかというと、その人の体についていた「しらみ」が、他の人に移って行くためにさーっと移動します。ぞっとする情景でした。

そうやって人が死ぬくらいですから、詐欺、恐喝、暴力、人殺し、最後には人肉を食べるなど、悪という悪がすべて溢れました。それを目の当たりにしながら、私は小さい頃に見た宗教画の「地獄絵図」というのは、想像で描かれたものではなく、実際に歴史の中でこんな時代があったのだと思いました。それを本当にこの目で見たのです。

移動の自由もなく、一步でも郡をまたごうと思えば、旅行証明書が必要でした。ですが、旅行証明書があっても警察が来れば、何かにつけてすぐに捕まります。そうすると賄賂を出さない限りは出られません。警察は車の中に（賄賂でもらった）高級タバコがいっぱいです。そんな摩訶不思議な国が北朝鮮です。

北朝鮮を知っている私がやるべきこと

無事に日本まで帰ってこられた私のような人間は、使命があるというか、北朝鮮の問題を必ず解決しなければなりません。今も北朝鮮にいる私の12人の家族とは、コロナ前に連絡が取れたのが最後で、その後はわかりません。

北朝鮮の問題が解決すれば、この地球上の問題はだいぶ解決するのではないかと考えています。それで私は裁判をし



ました。金正恩を相手にした裁判では高等裁判所まで勝訴したので、今、次を考えています。

◀ジャーナリストの五味洋治さんとの対談

一般社団法人 グローバル・ピース・ファウンデーション・ジャパン

東京事務局

住所 〒150-0032 東京都渋谷区鶯谷町7番7号 O・Hビル401号室

TEL 03-6416-5435 FAX 03-6416-5436

E-mail japan@globalpeace.org

仙台オフィス

住所 〒980-0011

仙台市青葉区上杉1丁目12-20-207

TEL 090-8546-7806